



卒業、離任と『別れの春』が来ました。『別れ』は人に、「別れゆく人への感謝」と「助けていただかなかつたらここまで来られなかったというご恩」を思わせ、謙虚な気持ちを出させてくれるように思います。

あす 未来に向かって～卒業 おめでとうございます～

3月17日（金）、40名の子ども達が卒業して行きました。入学したのは平成29年4月7日。小学校に通った日は、卒業式まで1202日です。その間、館野心愛（たての ここあ）さんが1日も休まず登校したことをはじめ、子ども達が長い間がんばってきた「あかし」が卒業証書です。

子ども達が生まれたのは、12年前。東日本大震災が起きた直後に生まれた子もいます。生まれるまで、おうちの方はどんなに不安だったことか、そして、無事に生まれてどんなにお喜びになったことか。生まれてからも、子ども達を守るのにどんなに必死だったことか。証書には、おうちの方の思いもぎっしり詰まった重みがあります。

式辞から

みなさんには、修学旅行から帰ってきた次の日、『『本当の自分』をめざして自分を高めていこう』と話しました。「目指したい自分」とは何か。

人は、みな自分の中に「弱さ」をもっています。人に負けるのが嫌でわざとがんばらないふりをしてしまいたくなることもあります。真剣な人を冷やかしたくなることもあります。でも、それは「本当になりたい自分」でしょうか。

あるとき、「本当は悔しかったんです。」と弱みを打ち明けながら涙を流した人がいました。その人はその時からますます一生懸命取り組むようになったのを知っています。「弱さ」や「足りなさ」に気づくから自分になりたい「本当の自分」が見つかるのです。でも、「弱さ」や「足りなさ」を認めるに少しだけ勇気がいります。少しだけ強くなければできません。

でも、先生方は見ていました。学習発表会の取り組みで、隣の友達がんばっているのを見ては「自分も」と頑張っていたところを。「まだ、足りない」とがんばったみなさんの目つきには「弱さ」から目をそらさない力強さもありました。一人の「強さ」は仲間とつながって集団の強さになりました。

だから、「弱さ」や「足りなさ」から目をそらさず、「やりたい本当の自分」に向かって、あきらめずに進み続けてほしいのです。

ここ（壇上）から見えるみなさんは実に凛々しい。でも、昨日の卒業式の練習でも、「まだよくない、もっとできる。」と言いました。確か、運動会の取り組みや陸上のリレーの練習でも、厳しく話をしたことを思い出します。でも、そのたびに、みなさんは、言葉を受けとめてがんばりました。みなさんの素直さは、先生方みんなが知っています。

先生方は、いつまでもみなさんの応援団です。自分になりたい「本当の自分」を目指して進んでいくみなさんを、ずっとずっと応援し続けることを約束します。

今年度は、卒業生も校長もマスクを外して証書授与を行った代わりに証書を読み上げず黙って手渡しました。目を合わせ、証書を受け取り、さっと向きを変え階段を降りる卒業生。その向こうに見えるのは、体育館に張られた「輝く笑顔 未来へつなげ」の横断幕でした。卒業生を見送る校長からは、子ども達が未来に向かって進んで行く力強さを感じたのでありました。

地域の皆様へ

教育委員会様、PTA会長様、そして地域の方々である学校運営協議会員様にご臨席をいただきました。地域の方々にご列席いただいたのは3年ぶりです。これまで、子ども達を見守っていただき、また、学校への支援もいただきました。本当にありがとうございました。

